

アウトプット型新学力育成システム

思考探究ゼミ

Think Deeply and Explore the World

制作 株式会社学研プラス

販売 株式会社文理

1

「思考探究ゼミ」教材概要

教材プログラム概要①内容／対象／授業構成

- 「アクティブ・ラーニング」
の手法を用いた
「探究型」学習プログラム

- 対象

小学4～6年生

(プログラム自体は無学年形式)

- 授業の基本構成

- 1テーマあたり45～60分×4回

映像によるレクチャー＋教室現場でのワークで構成



教材プログラム概要②教材構成

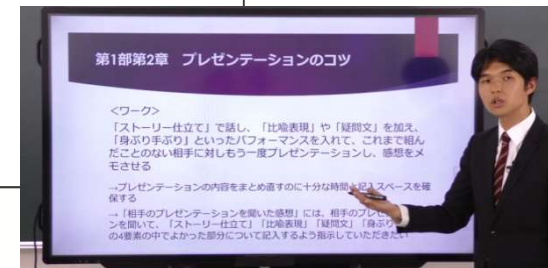
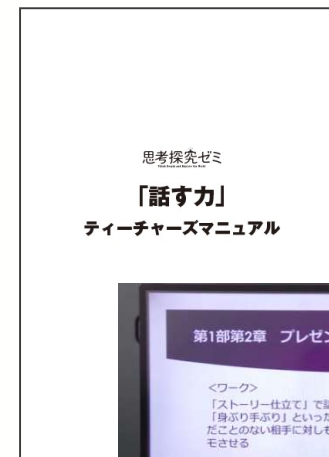
■ **教材構成** ※1テーマ（45分×4回）あたり

➤ **生徒用：テキスト1冊**（オール4色／60ページ程度）

➤ **教室用：授業用映像**（DVD提供）

ティーチャーズマニュアル（1色／40ページ程度）

指導のポイント解説映像（DVD提供／30分程度）



本プログラム導入による塾様のメリット

● 非受験層への指導強化

「新しい学び」を提供。将来の上位校高校入試対策準備。
→「思考力養成」「表現力育成」といった
“感度の高い保護者に刺さるフレーズ”の打ち出し

● 中学受験層への指導強化・基礎固め

「総合型」「PISA型」など、近年のトレンドに対応
⇒国語や社会科といった教科への学習効果波及も期待

● PRツールとして

「有名講師によるアクティブ・ラーニング型授業」を
内外へのPRに活用 ※講師画像をお使いいただけます

**指導の強化・特色化・差別化による新規顧客の開拓
通塾生のモチベーション向上と継続率アップに貢献**

2

教材の特徴

基本的な授業の流れ (1テーマ45～60分×4回完結)

① レクチャー映像を見る

★映像が下記を担う

- ・ 学習テーマの提示と動機付け
- ・ テーマ知識のレクチャー
- ・ ALのスキルレクチャー
- ・ アイスブレイク
- ・ ミニワーク



② 個人ワーク／グループワーク

★現場の先生がファシリテーション

- ・ 意見文・報告文をまとめる
- ・ プレゼンテーション
- ・ ディスカッション



③ まとめ映像を見る



★映像イメージ



←【テーマ知識のレクチャー】
テーマに関する知識をわかりやすく解説する

【アウトプット法のレクチャー】 →
「ディスカッションの方法」など
ALについてもレクチャーする

伝える文章にするためのポイント

1. 文章全体のバランスに注意すること
2. 文のリズムに気を配ること
3. 言葉づかいに気をつけること



ミニワーク
3:50

「ももたろう」を要約しよう

←【ミニワーク】
映像の中にもミニワークを入れることで、
能動的な授業参加を促すと同時に、
授業進行をサポートする

★テキストイメージ

「書くのが苦手な人」には大きく二つのタイプがある。

●何を書けばよいかからない
↓今後の人生の中で、いろいろなことを経験し、いろいろなことを考えるようになる。その中で、「書きたいこと」「書くべきこと」がうかんでくるので、心配はいらない。

●どうやって書けばよいかわからない
↓まずは書くことが大切。そのために必要なトレーニングは、「要約」と「本の要約」を身につけていけば、書けるようになる！

①要約を試してみよう

※要約とは？
……それがどんな内容か、感想を交えずに正しく、わかりやすく伝えること。

※要約トレーニングをするとき
……どうすれば相手に正しく伝わるか、どうすれば相手の心に届く表現ができるか、がわかってくる。

書く力

第1章 「書くこと」は「コミュニケーション」

日記、手紙や電子メール、口説き、読書感想文、記述式のテスト

これらに共通しているのは何だろうか。日記は、その日の出来事や感じたことをまとめるものだ。読書感想文は、読んだ本の内容や感想を書いたもの。記述式のテストは、答えを文章でまとめるタイプの問題のこと。手紙や電子メールなどは、思っていることを読み手に伝えるために書くもの。どの文章も、自分が考えた感じにしたい文章を相手に表現する非言語的なコミュニケーションだと言える。つまり「書くこと」は、「伝えること」であり、「自分の考えをわかりやすく、相手に伝える力をつける」ということです。学校生活はもちろん、社会に出てからの力が大切なことは変わりません。手始めにこの章では、書く力をつけるための基礎トレーニングをやってみよう！

ほかに本文章を書く場面でないかな…？

「ももたろう」を要約しよう

昔、あるところにおじいさんとおばあさんが住んでいた。ある日、おばあさんが川で洗たくをしていると、大きなものが流れてきた。おばあさんがそれを家に持ち帰って切ってみると、中から元気な男の子が出てきた。おじいさんとおばあさんは、男の子を「ももたろう」と名づけて大切に育てた。大きくなったももたろうは、村人を困らせるおにをこらしめるために旅に出た。旅のどちらか、おばあさんが作ってくれたきびだんごを引かずに、犬、さる、きじを仲間にした。ももたろうと仲間たちは力を合わせておにと戦い、降参させた。おにはおわびにくんさんの宝物をももたろうに差し出した。ももたろうたちは宝物を持って村に帰り、村人たちにあえた。村は平和になり、人々は幸せに暮らしたといふことだ。

文章が書かれていることだけを使って、まとめてみよう。

映像レクチャーの内容を誌面でも丁寧に解説しており、授業での補足説明や復習等に活用可能です。

★ティーチャーズマニユアルイメージ

1-1 話す力 第1部 第1章

「話す力」の大切さ

(24頁94～99ページ)

● **本講座「話す力」のねらい**

- 「論理的に自分の考えを伝え合うこと」の大切さと楽しさを受講生と共に学び取る

今回の4回講座「話す力」の最大のねらいは、「話すこと」が思考力を深めることに直結する営みであると気付かせるとともに、プレゼンテーションやディスカッションの準備・実践を通じて「論理的に自分の考えを伝え合うこと」の大切さを学んでもらうことにある。このプログラムでは、受講生に実際に取り組んでもらう課題が数多く用意されており、「話すこと」の楽しさを多くの受講生に感じてもらえるようになっている。是非、日頃「話すこと」を生業としている指導者としても、一緒に学ぶような意欲と課題を盛り上げていただくとともに、新たな気づきを一つでも多く得ていただきたい。

- 一週性の楽しさで終わらせない

「話す力」という、大きな声でハキハキと英語で話すといった大まかな表現技法に意識が向かいがちであるが、姿勢や目線、相づちや相手を引き出す質問の仕方、自分の意見を受けとめてもらいやすくするような言い方など、工夫すべき点は実に多くある。「話すこと」の楽しさを多くの受講生に感じてもらうだけでなく、何を学び取ることができたか、今後どういった点に気を付けるべ

きかなど、受講生が確実に技術を身に付けられるような指導を心掛けていただきたい。

- 性格上「話すこと」に消極的な受講生への配慮を

「書くこと」に比べて「話すこと」は性格上あまり好まない人が存在するため、「書くこと」の練習以上に消極的な受講生への配慮が求められる。受講生本人が苦手を克服しようとする前向きに取り組んでいるようであれば優しく応援し、もし強い抵抗感を示すようであれば無理に他の受講生と同じプログラムを消化させようとせず、一つでも、少しでも実際に声を出してもらうことで、徐々に授業に引き込んでいくよう手を差し伸べていただきたい。

(ポイント)

- ・「話すこと」の楽しさを多くの受講生に感じてもらうだけでなく、受講生が確実に「話す」技術を身に付けられるような指導を
- ・性格上「話すこと」に消極的な受講生には、温かいまごじで接する

1 本時のねらい

「話し方」「聞き方」の基本を確認するとともに、「自己紹介ゲーム」を通じて話すことの楽しさ、大切さを実感する。

2 本時の構成

①映像：テーマ確認・アイスブレイク [3分]
②映像：Lesson1「聞き方の練習」 [1分]

③教室：ミニワーク「自己しようかいをしよう」 [5分]
④映像：上手な話し方のコツ [4分]
⑤映像：Lesson2「聞き方の練習」 [7分]
⑥教室：ミニワーク「聞き方による違いを体験しよう」 [5分]
⑦映像：Lesson3「ストーリーにして話す」 [7分]
⑧教室：ワーク「自己しようかいをストーリーにしよう」 [10分]
⑨映像：授業のまとめ [2分]

3 授業展開

①映像：テーマ確認・アイスブレイク

■映像の概要

「話す力」は毎日必ず使う力であり、特に相手に自分の思いや考えを伝えたり、相手に自分の意図通りに動いてもらうためには話す力は不可欠であると述べている。そして「話す力」が増せば、人生も明るなものになり、自分の夢も叶えることができること力説している。

さらに言葉の力として、問題の本質や解決策を頭の中で整理でき、人に伝えることもできるという点や、失敗も含めて練習を積み重ねていけば誰でも「話す力」が身に付くということを語っている。

■指導上の留意点

- 相手に自分の意図通りに動いてもらえるには人間が社会生活を営んでいく上で、誰かの力を借りない限り自分の意見を叶えることはできない。よって、相手に自分の意図を的確に伝え、動いてもらうことは自分の夢を叶えることにつながるという点や、失敗も含めて練習を積み重ねていけば誰でも「話す力」が身に付くという点を伝える。

●なかなか手がかからない受講生への対応

指導者は教室の中を移動して受講生の様子をチェックし、もし自己紹介の内容を決められない受講生が存在する場合には、たとえば「名前」「好きな食べ物/好きな食べ物」「好きな科目」と指定して書くよう指示するとい。このパートは自己紹介の内容自体を問うものではないので、内容を決めることに過剰な時間や負担が生じないように配慮していただきたい。

また、発表の段階で積極的に取り組まない受講生が存在した場合には、まずは優しく声を掛けて促し、どうしても難しいようであれば聞き手役だけ務めるよう指示していただきたい。

(ポイント)

- ・事前になるべく面識のない二人で組むよう席の配置を工夫したり、番号や記号を書いたカードを渡しておいたりする
- ・参加者が全員顔なじみで、指導者も受講生のことをよく知っている場合には、スムーズに進行するような組み方を事前に設定する
- ・自己紹介で何を言うかは基本的に自由だが、何を話せばいいか戸惑う受講生が多いようであれば、まず名前を言った上で、内容の候補から2〜3個選んで組み立てさせる
- ・自己紹介の内容を決められない受講生には、「名前」「好きな食べ物/好きな食べ物」「好きな科目」など指定して書かせる
- ・発表の段階で積極的に取り組まない受講生には、まずは優しく声を掛けて促し、どうしても難しいようであれば聞き手役だけ務めるよう指示するとい

②「買って買って！」とだだをこねる。
—自分でアイスクリームを買わない限り、いつまでも騒ぎ続けるという意思が伝わればもしかしたら買ってくれるかもしれない(相手に動いてもらうためのポイントになる)
③「今日は暑いから」「甘いものが食べたいから」と理由を付ける
—アイスクリーム以外のものでもよいので今買ってもらえる可能性はあまり高くない(相手は今ひと納得しない理由付け)
④「この前お手紙いしたから」「この前のテストがいい点数だったから」と理由を付ける
—お礼やご褒美として買ってあげてほしいと思ってもいい(相手に納得する理由付け)
⑤「すごく美味しいから一緒に食べよう」と付け加える
—相手もアイスクリームが好きだったり、一緒に何かを食べたいと思っていたりしたら買ってもらえる可能性は高い(相手に動いてもらうためのポイントになる)
●失敗を恐れずチャレンジすることの大切さを伝える
「話す」とときには、自分の考えが整理しきれないうちに言葉が発してしまったり、適切な言葉が用いられなかったり、言い方が悪かったり、タイ

④映像：上手な話し方のコツ

■映像の概要

まず自己紹介の練習のねらいは、身振り手振り、目線、声のトーンなど、話すときの基本姿勢を覚えてもらうことにあると述べ、アシスタントの実演を元に、相手の目を見て、堂々とゆくりと話すことが大事だと説明している。

その上で、自分の魅力を見せることが大切であり、下を向いてぼそぼそ話しているようでは、相手も聞き取れないし興味を持ってくれない、聞き取れないと注意している。立って話すときには、男子は足を肩幅ぐらいに開いて、女子はやや狭めで、胸を開いて、軽く腰を曲げて下ろし、深呼吸してリラックスし落ち着いた表情を持って笑顔で話すことが大切だと説明している。

そして、もちろんTPO(時間、場所、場合)に合わせて話すことが大事ではあるが、基本姿勢を身につけることも大切であると伝えられている。

■指導上の留意点

- 自分ができていなかった点と相手ができなかった点を振り返る

お互いのできていた点とできていない点を振り返るようにすると、相手の揚げ取りになってしまいかねないので、できていなかった点は自己反省とし、相手のできていた点を褒めるような形にするとい。以下のポイントができていたかどうかをチェックしていただきたい。

- ・肩幅程度に足を開いていたか
- ・胸を開いていたか
- ・落ち着いてから話し始めたか
- ・自信を持って話していたか
- ・笑顔で話していたか

「指導上の留意点」等をわかりやすく解説。
添削指導のポイントやファシリテーションのコツも詳述。

10

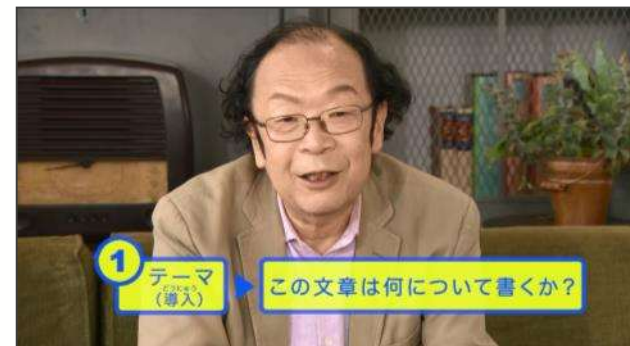
★「書く力」(金田一秀穂先生)の概要

■ねらい

文章の書き方の基本を身につける

■構成：45～60分×4回


- (1) 「書くこと」の大切さと「書き方」のコツ
- (2) 文章の「基本」「型」「ルール」
- (3) 意見文の書き方のコツ
- (4) 報告文の書き方のコツ



金田一先生の解答例

江戸時代の人に携帯電話を説明する

遠くはなれている人と会話や文字のやりとりができる機械です。
さらに、今の様子をあとで見られるように残しておくことや、
わからないことをすぐに調べられたり
音楽を楽しんだりすることもできる機械です。



★「話すカ」（パクン先生）の概要

■ ねらい

「プレゼン」「ディスカッション」
の基本を学ぶ

■ 構成：45分～60分×4回

- (1) 話し方・聞き方の基本
- (2) プレゼンテーションの基本
- (3) ディスカッションの基本
- (4) グループディスカッション



★「読み解く力」(池上和裕先生)の概要

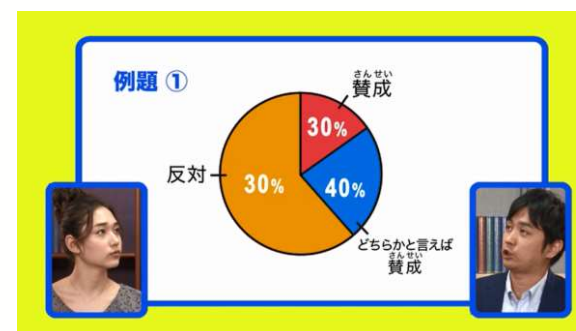
(学研プライムゼミ現代文講師)

■ねらい

文章や資料から情報を正しく読み取り、
理解する力を身につける

■構成：45分～60分×4回

- (1) 文章から情報を正しく読み取る
- (2) 複数の情報を比較して整理する
- (3) 表・グラフの見方と使い方
- (4) イラスト・写真から読み取る



Gakken

3

導入イメージ

塾様での導入イメージ

【本プログラムの特徴】

- 1テーマあたり45～60分×4回程度のボリューム
- 全教科の基礎となるスキル養成が目的
- 子どもたちや保護者の興味をひくプログラム
- 1テーマ単位でのご提供が可能



月1回程度の**特別講座・フォロー講座用教材**として、
または夏期講習や春期募集イベント等の**季節講習用
教材**としてのご活用を、まずはご提案いたします

※将来的なラインナップ拡充後は、通年講座としてのご提供も

※指導サポート付きの**トライアルパッケージ**もご提案可能です

受講者アンケートより

■書く力

- 意見文がとても苦手だったけれど授業を受けて好きになった。(4年生)
- 書くことに自信がわいた。もう一回やりたい！！(5年生)
- 来年の読書感想文は一人で書ける自信がついた(5年生)
- 学校の卒業文集で役に立ちそう(6年生)

■話す力

- 人と話すときに、ガチガチにならなくなった。(4年生)
- 学校ではしないこともできて楽しかった(5年生)
- とてもわかりやすかったので、普通の授業にも入れたらいいと思う(6年生)
- 家で家族と話すときに、学んだことを試したい(6年生)

授業全体に関する先生の声

- 今の子どもたちにあまり備わっていない力を中心に練習ができる教材だと感じた。
- 生徒は想像以上に映像授業に対して抵抗がなく、「書く力」がレベルアップしたと実感できた生徒が多い。手が止まる生徒が少なくなり、「話す力」の授業でも「書く力」の効果を感じた。
- パックンは抜群に子どもの興味を引いていた。楽しそうな雰囲気と話し方で、生徒は楽しく映像を見ていた。
- 普段は目立たない生徒が、「話す力」の授業だといきいき、活躍していた。
- あえて知らない生徒と話し合いをさせたが、意義を説明したら全員が抵抗なく話していた。「話す力」が上がったと実感できた生徒が多い。

思考探求ゼミは6テーマ

「書く力」

「話す力」

「読み解く力」

「環境とSDGs」

「テクノロジーと人間」

「グローバル化と多様化する社会」

価格

- ・ 生徒用テキスト
各2,750円（10%税込）
- ・ ティーチーズマニユアル（DVD付）
各16,500円（10%税込）

ご検討いただきます様、お願いいたします。